

社員の皆様へのメッセージ

株式会社 イナテック

代表取締役社長 稲垣 良次

2024. 1
No.365

私の性格と似た所があるように思いますが、先ずは、前向きに明るくポジティブに考えたいと思っています。どうか一年間宜しくお願ひいたします。

新年あけましておめでとうございます。

最近思うこと

(セクショナリズム・利己主義)

(稻盛和夫「考え方」より)

修行僧の雲水が老師に問うた話

今年は辰年です。(私は年男になります)
『辰年』をネットで調べてみました。

辰は十二支の中で最も縁起の良い干支と言
われており、様々な願いを叶えてくれるだけ
でなく、あらゆる物事を良い方向へ導いてく
れる力があるとされています。

辰年生まれの人は、どんな性格?(これも
ネット検索)

と言いますと、辰年生まれの人は先見の明が
あり、人の先を行く人です。周りには多くを
語りませんが、スケールの大きな夢を持つてい
ます。マイペースで我が道を行く性格で、掴み
どころのない人だと思われることが多いです。
活動的で行動力があり、人との出会いも沢
山経験します。

「利他の心」と相反することが、ちょこちょ
こ我が社に起こっているような気がする。

それは例えば、ある特定の人に残業が集
中している。

係を越えて、課を越えての助け合いが薄ら
いできている。なぜか、ある人が言つてた言葉
が少し気にかかる。それは、自分が人に仕事
を頼むと、頼まれた時にやらなくてはならな
くなる。

だから無理をしても自分が抱え込み、やろ
うとしてしまう。この考え方は「美しい」だ
ろうか。もつとオープンにして「助け」を求
めれば良いのではないか。

それをお察してあげる。それを気持ち良く
受け入れる。そんな空間が利他で言う「美
しい心」ではないでしょうか。

「地獄も極楽も外見上はまったく同じよ
うな場所だ」と答えます。

どちらにも大きい釜があつて、そこにお
いしそうなうどんがぐつぐつ煮えている。
ただし、うどんを食べるには、物干し竿の
ような長い箸を使うことになっています。

地獄界に落ちてきた人たちの場合には、
みな利己的な心の持ち主ですから、「オレ
がオレが」と、我先に食べようと、釜のな
かにいっせいに物干し竿のような箸を入
れて、うどんをすくい上げようとしますが、
あまりに箸が長く、うまくつかめません。
そのうちに、互いに相手がつかもうとした
うどんを奪おうと争いになり、うどんは飛
び散るばかりで、一向に口に入りません。
運よくうどんをうまくつかめたとしても、

とても自分の口まで運ぶことはできません。結局、誰もうどんを食べることができます。それが地獄の光景です。

一方、極楽では、条件は同じですが、非常になごやかです。みんな優しい思いやりの心の持ち主ばかりですから、自分のことを先に考えるのではなく、自分の長い箸でうどんをつかむと、「お先にどうぞ」と言つて、釜の向こう側にいる人に先に食べさせてあげる。すると、向こう側の人も「あ

りがとう。今度はあなたの番です」と言い、同じように食べさせてくれます。だから、物干し竿のような箸を使つても、お互に感謝を述べあいながら、和氣あいあいと食べることができます。

阿鼻叫喚アヒヤウカンのちまたと化している地獄と同じ環境、同じ条件、同じ道具立てなのに、極楽では全く違う様相を呈しています。それはまさに、そこにいる人の心の状態の差だけと言つてもいいと思います。

それは現実世界でも同じです。「自分さえよければいい」という利己の心を引き出しにして世間を渡つていけば、必ず軋轢ゼンゼンが生じ、さらに悪い方向へと自分を追いやってしまいます。そうした利己の心を離れ、まず自分から思いやりの心で周囲に接するようになります。一人ひとりがそうした「利他」の心を持つことで、潤いのある平和で幸福な社会が築かれていくはずですし、一人ひとりの運命も好転していくはずです。

イナテックの企業理念の中にもあるように「フェイス to フェイス」「ハート to ハート」で行動することにより“利他の心”が生まれ育ち、気持ちの良い社風ができるのではないか。そして、それを継続する”ことが利他で言う「美しい心」に繋がるものと考えています。

社員の皆様とその御家族の幸せづくりのためにも努力をし続けます。

“利他”元年の年として再出発いたしますので、宜しくお願ひいたします。感謝。

※阿鼻叫喚

地獄に落ちた亡者が、責め苦に耐えられずに大声で泣きわめくような状況(800辞書より)

菜根譚後集

九六

理寂則事寂。遺事執理者、似去影留形。心空則境空。去境存心者、如聚殼却炳。

本体の理が空寂であれば、当然、現象の事も空寂である。それなのに事を捨てて理を固執することにこだわる者は、影を取り去つて形を残そうとするようなもので、不可能である。また、本心が空寂であれば、当然、外境も空寂である。それなのに外境を捨て去つて本心だけを温存しようとするとする者は、生臭い肉を集めておいて集まりたかる蚊やぶよの類を追い払うようなもので、全く無益である。

社員の皆様へのメッセージ

株式会社 イナテック

代表取締役社長 稲垣 良次

2024.2
No.366

清掃の時間や回数を減らす、使いにくい道具を使い続ける、清掃道具をメンテナンスしないなど、「とりあえずこれでいいか…」の対応はNG。

一時的にコストは下がるもの、美観を維持できないため、後々まとめて清掃しなければならず大きな負担になつたり、お客様や従業員が不快な気持ちになつたり…。

さらに、使いにくい道具や効率の悪い方法での清掃で、作業する従業員のストレスにつながるなど、さまざま面でマイナスになります。人件費が上がり続ける状況の中、短い時間で少ない手間でキレイを維持するなら、「汚さない・汚れを取るための効率的な道具」「作業方法」「清掃にかかる時間」の3つの軸で見直すことが重要です。

今年から毎朝20分間清掃再開

再開のきっかけは、残念ながらお客様の評価でした。「最近のイナテックさんは何か方向性が違つてきているみたい。現場が荒れいる。」というアドバイスをいただきました。その原因を考えていたら、次の記事を見つけました。

NGコストカットで低下する3つのこと

やつてはいけないコストカット

(ダスキン ビズより)

- 1 美観が悪くなる。
- 2 効率が低下する。
- 3 従業員のモチベーションが低くなる。

もうやめよう「ルールですか」

「これでいいか…」とりあえずのコストカットは失敗する！

つまりイナテックの再出発と言つてもいいと思つております。今後は一度とブれないよう考え方を浸透させ、皆でイナテック最上位概念である『社員の質的・生活向上・家族の幸福』を実現すべく努力いたしますので、皆さんのご協力をお願ひいたします。

まさにイナテックに当たはりました。コロナ禍の中、非常事態だったこともあり、清掃時間を短縮し生産の時間にしたり、汚れた中で技能員の方々に仕事をお願いしたこと、誠に申し訳なく思つております。

存在します。それは、本当に守れる、守りやすい標準書でしようか。

管理者やスタッフが責任のがれのためのものになつていませんか。皆さんは責任のがれとうより、真剣にまじめにやつた結果が非常に項目の多い、複雑なルールになつてしまつてゐるのだと思っています。

もう一度、今一度、『このルールは何のため？』『このルールの目的は？』『このルールの狙いは？』これらを考えてみませんか。

この2月の厳冬の中、感染症予防のために窓をフルオーブンにしています。それを聞いてみると「ルール」ですからという答え。

そのフルオーブンは、科学的に本当にそこまでせねばならないのでしょうか。窓を一日中開けエアコン暖房をフル回転させる。この換気の目的は「感染予防」なのです。

当社の窓枠を見て下さい。『すき間』だらけですよ。充分ではないですか。それよりも、『手洗い』や『うがい』をこまめにやつた方が予防になると思いますが、いかがでしょうか。そして皆さんのが家庭で窓をフルオープンにして換気してみえる方はいますか。

苦難に挫けず、前向きに必死に働いたことで、今日の自分があることに気づき、一生懸命働くことの大切さを痛感します。

もう一度考えてみて下さい。その「ルールは何の目的ですか。それを考えればもつとシンプルな答えが返つてくると思います。

そしてオペレーターの方々や技能員の方々、スタッフの方々ももつと楽にいい仕事ができるのではないかと私は考えています。これからは『このルールは何のため』『このルールの目的は何か』を合言葉にして、ルールを軽くしましょう。お願いします。

人は追い込まれ、もがき苦しんでいるながまでも、真摯な態度で物事にぶつかっていくことで、ふだんでは考えられないような力を發揮することができます。

そして、その努力の向こうには、自分で想像できないような、素晴らしい未来が広がっているのです。

懸命

(稻盛和夫「考え方」より)

現在のイナテックグループは、まさに『苦難の連続』なのです。「一社依存経営体質が危険だ」ということは10年も20年も前より語ってきた事ですが、人間(私自身)は弱い者です。実行できなかつたのは事実です。

今、『100年に一度の大変革期』に差し掛かって本腰を入れるようになつたわけです。

(日経新聞 昭和99年の反撃)今でもギリギリ遅くはないと考えています。ここで大切なのが『真摯な態度』です。

『真摯』とは、眞面目さ・眞実さ・熱心さです。

営業2部を始めとし、我がグループ社員全員がそれに向けて『懸命』に努力し結果を出すしかないと考えています。「ピンチはチャンス」なのです。人はピンチが来ないと出来ない

い者かもしません。今でも遅くはない！皆で生き残りを賭けた勝負に出ようではありますんか。

よつしゃ！やろう、やつてみせよう！

菜根譚後集

九七

幽人清事總在自適。故酒以不勸爲歡、棋以不爭爲勝、笛以無腔爲適、琴以無絃爲高、會以不期約爲真率、客以不迎送爲坦夷。若一毫文泥迹、便落塵世苦海矣。

山人の風流ごとは、すべてわが心にかない悠々自適するのが大切である。そこで、酒はむり強いしない方が歓を尽くし、碁はけんか碁でなく争わない方がすぐれていて、笛は音律のない方がよく、琴は無絃の方が高尚で、会合は日時を約束しない方が飾りけがなく、お客様は送り迎えしない方が気楽である。そうではなくて、もし世間並みに形式にこだわり慣例にとらわれ出すると、それこそ、せっかくの風流も浮世の苦海に逆もどりしてしまう。

